

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900573		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園グループホームフクちゃんハウス		
所在地	岩手県一関市真柴字岩ノ沢91番地19		
自己評価作成日	平成26年8月25日	評価結果市町村受理日	平成26年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0370900573-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成26年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者一人ひとりの潜在能力と、その人らしさを引出し、思い、状況を把握しその方に合わせた個別支援への取り組みを行っている。(余暇活動、外食、ドライブ、ふるさと訪問等)・認知症の理解、医療に関する専門的知識の習得に努め職員のレベルアップを図る為、外部研修、内部研修への参加、又、報告により情報の共有に努めている。・行事による家族、地域の方々との交流を深め、又、そこから信頼関係を築ける様繋がりを大切にしている。(バイキング交流会、納涼会、敬老会、芋煮会、運営推進会議、地区民運動会、子供神輿、ボランティア等)・1ヶ月の様子をお便り、記録(通院)、バイタル表を郵送し、家族様にも確認して頂く事で、本人の状況の把握に努めて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住む環境が変わっても、家族との繋がりを何より大切に考え、入居者が毎日その人らしく暮らせる支援に、管理者を先頭に職員全員で取り組んでいる。ケアプラン作成、見直しには、家族が必ず参加をして、職員と共に意見を出し合い、情報の共有をしている。運営推進会議には、入居者、家族全員を委員にお願いして意見を出して頂いている。遠方の(神奈川県在住)家族も月1回は必ず来訪して、近況の確認をしていく。家族と管理者、家族と職員、職員同士の関係は極めて良好であり、職員の資質向上への学習意欲も旺盛である。入居者と家族を中心に、職員はあくまで脇役であることに徹して日々取り組みをしており、その真摯な姿に心打たれた。「職員の手がもっとあれば、もっと入居者に関われる」と介護現場の現状が見えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一度(年度が変わる前)、職員全員で意見を出し、職員個々の思いを反映させた事業所目標を作成している。事業所理念を、ホームの玄関への掲示、毎月の職員会議で提示し、意識作りを行い、又、職員間で共有することにより実践へと繋げている。	法人の理念(玄関に掲示)の他に職員全員の意見で作成された事業所の年間目標を掲げ、事あるごとに振り返り、入居者本位のケアに努めている。職員会議で意識の共有を図り実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1度、地域のボランティアの方々により郷土料理をふるまって頂いている。又、地区民運動会への参加、夏祭りの子供神輿、小学校への雑巾寄贈等から地域との繋がりを確立している。又、運営推進会議にて家族、地域の方々、行政職員との意見交換の場を設けている。	ホームの周囲に民家はないが、地域との繋がりを大切に、食事ボランティア(二人会)が月1回来訪し、季節の料理を作り、入居者から喜ばれている。小学校への雑巾寄贈(開所以来継続)保育園児の来訪、文化祭への案内と交流の幅が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様個々の出来る機能を活かし、雑巾縫い等をしていただいている。又、年1回、地域の小学校へ出向き、100枚の雑巾の寄贈を行っている。(新聞社の取材から、新聞へ記事の掲載)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、地域住民、家族、行政職員を招き、運営推進会議を行っている。都度、取り組み状況等を報告し、情報の交換、意見や助言を頂く機会を設け、サービスの向上へと繋げている。報告する事によって状況の把握が保たれている。	順調に会議が開催されており、入居者、家族の全員が委員に委嘱され、半数以上の方が参加をされている。ホームの報告、質問意見が活発に出てきている。包括職員(行政)の情報提供により、委員さんの認知症に対する理解が深まり、ホームの良き応援団になって頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会議へ参加していただき、事業所の取り組みの報告、又、市職員から意見を頂き、情報の共有を図っている。集団指導会を通じて状況確認の場にもなっている。又、個別内容も訪問・電話等にて確認し、相互の共有が保たれている。	推進会議時での情報提供や指導を頂いたり、ホームからは、事故報告、現状報告と出向いての連携がとられている。市主催の集団指導会には、必ず参加をして市内の動向の把握をして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対するマニュアルを作成し、職員間で理解と情報の共有を図っている。又、毎日、身体拘束・玄関施錠のチェック表にて確認と意識づけを行っている。又、毎月1回、法人内GHとの合同委員会にて職員会議での話し合いの結果を提示し意見交換している。	ホーム独自のマニュアルを作成してあり、研修にも力を入れている。1人、年1回は必ず外部の研修に参加をしている。すべての入居者が介助を必要としているため、離床センサー設置の方3名、布団に鈴をつけている方2名、(家族のご希望で)睡眠導入剤使用の方2名で、安全の確保をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員会議での研修、禁句マニュアルの作成から、職員間で学ぶ場を作ったり、意識づけを行っている。又、家族様との関係、情報を密にし、外出・外泊の際などの不安やストレス等の緩和に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、職員会議での資料配布、説明を受けている。又、外部研修へ参加し、学んできたことを事業所職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際の契約、契約の変更の際は、契約書を提示し必ず家族様へ説明を行っている。又、面会、通院時等、随時、家族様の不安や疑問を聞き、都度理解していただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談受付の箱を玄関先に設置している。又、定期的に家族様へのアンケートの実施や、運営推進会議、ケアカンファレンスでの発言の場を作り、今後に繋げるような取り組みを行っている。	家族の意見を聞くために年1回家族アンケートを実施している。遠方の家族には郵送で回答を頂いている。全員の家族さんから回答を頂き、運営に反映させている。「現状のままでよい」「満足している」との回答が大半であるが、来訪時にも意見を聞いて、より良いケアを目指して取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、年2回の個人面談にて、職員個々の思いや意見を聞く場を設けている。又、それ以外にも、普段から話せる場の環境作りを行っている。	常に意見や要望を言える体制が確立されている。法人として、人事評価制度を導入しており、気付き、アイデアを大事に自己評価を行い、その結果を職員にフィードバックして、自己研鑽につなげている。今のところ職員からの要望等は出ていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価・上司からの評価を行い、又、それを基に個人面談を行い、職員個々の意見を取り入れ、職場の環境整備・条件の整備に努めている。又、その日の状態に応じ、仕事内容、時間帯も当事者と話し合い対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修へ参加し、学んできたことを職員会議や、復命書を通して職員間で共有している。又、必要に応じて、外部で学んできたことを施設内研修にて再度学ぶ場を設けている。法人内研修もあり、事業所の代表として研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の研修へ参加したり、他施設の職員が集まる定例会に職員を参加させることにより、情報交換や交流の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、調査に出向き、本人・家族の話聞き、それを基にフェイスシートを作成している。そこから、職員間で情報を共有し、本人が安心して生活できるためのケアを導き出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際の事前の調査で、家族が安心できるようにしっかりと話を聞く場を設けている。出来るだけ、要望に近づけるよう対応し、又、面会の際、近況報告させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、調査に出向き、フェイスシートを作成し職員間で情報を共有している。又、そこから入所判定会議を行い、職員皆で本人の不安・負担の軽減に繋がるよう、ケアの方針を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から入居者様との会話やコミュニケーションを大切に、本人の出来る機能を活かした支援を行っている。本人の思いを聞き、受け入れ安心して頂ける様対応している。他入居者が行っている事に関心を抱き「自分も」という気持ちが抱いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に数回、家族参加の協力の下、行事を行っている。又、毎月発行しているお便り・手紙にて入居者様の状況など表情をお伝えしている。行事等を通じ、関わりを多く持つことで、互いの情報共有に役立てている。面会の際にも情報提供を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族協力の基で故郷訪問や、外泊・外出等の実施。又、面会等を多く持ってもらうための働き掛けを行い、繋がりを大切にした支援を行っている。	家族との通院時に自宅に立ち寄ったり、食事をしたり、買い物を楽しむ方もいる。1人の方は月1~2回、外泊する。遠方の家族も月1回は必ず面会に来ている。床屋、美容院は、今までの行きつけの店に出かけている。誕生日には家族の面会もあり、継続した支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様方が共通して行える作業や、お互いに関われる場を設けたり、職員が間に入ることにより、孤立しないような支援を行っている。状況により、席替えを行い、コミュニケーションの場を広げている。「自分も」という意欲も伺える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者様の家族様にも、行事・慰問等で協力していただき、現在も交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から入居者様との会話等から、本人の思いを引出し職員間で情報を共有しケアに取り組んでいる。又、ケアカンファレンスや面会時に家族様や本人の希望・要望等を聞き、職員間で話し合い支援へと繋げている。	難聴で意思の疎通が困難な方が3名おり、ゆっくりと話して、想いの把握に繋げている。唱歌を歌ったり、入浴時の会話で想いを把握したり、本人の想いに近付ける支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で話されたことや、家族様、フェイスシートから生活歴を把握し、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定、食事・水分・排泄のチェック、表情や言動等から、日々入居者様の状態を把握している。又、職員間での申し送り等で、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年2回、ケアプランの見直しの際にケアカンファレンスに家族様も参加していただき、それを基に職員会議で話し合い、本人・家族様の希望・要望を反映した介護計画を作成している。	6ヶ月ごとの見直しには、必ず家族にも参加をして頂いて忌憚のない意見をもらっている。些細なことでも家族の思いを十分に取入れた介護計画を作成している。遠方の家族には、郵送で確認をして頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録・申し送りや、職員会議にて情報の共有を行っている。又、毎月のケアプラン評価から、職員間で意見を出し合い、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態観察、申し送り等から情報を共有し、サービスへ繋げている。家族様の要望により、故郷訪問の際の送迎、家族様対応の方の、緊急時通院介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度、地域のボランティアによる郷土料理の提供、又、地域住民による畑での野菜作り、地区民運動会・子供神輿の参加等から、入居者様が楽しんで過ごしていただけるような環境作りを行っている。(見て楽しむ、見て感じる・認知機能の強化)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される前から受診しているかかりつけ医へ、現在も通院している。又、家族様が対応する通院の際は、医師へ宛てた通院情報提供書を作成し、医師とのコンタクトを取っている。尚、必要に応じ、職員も通院に同行し、医師・家族・事業所との連携も確保している。	サービス利用で、2名の方が「かかりつけ医」をホームの協力医に変更している。毎月、家族宛に、入居者のバイタル表と通院記録を郵送している。6名の方はホームで通院を介助している。家族が介助する時には、医師宛に通院情報提供書を作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師はいないため、何かあった際には併設されている施設看護師へ協力を仰いでいる。又、日頃から関係を密にし、相談や対応していただける環境を作っている。入居者の把握を的確に行い、出来る事は事業所として行う事は大切にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所へ入所される際に、併設された特別養護老人ホームへの入所の申し込みもしていただき、重度化に伴い適切な支援ができる施設への異動も視野に入れた対応を行っている。運営推進会議の際、現在の事業所の実情を説明し、ご理解頂いている。又、特養からのアプローチもあり、家族様が納得した上で異動して頂いている。	利用開始時に、本人・家族にホームでの対応可能な限度を説明して、重度化対応可能な法人の特養ホームへの入所申し込みをお願いしている。過去には家族の都合で、他の施設へ変わられた方もいる。ターミナルを見据えた助言は、家族にとって安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の際の対応マニュアルの作成、施設内研修の実施、救急救命講習の実施、避難訓練の実施等から、日々職員の意識を高め備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練の実施、各災害に対するマニュアルを作成しており、各職員が対応の知識を共有している。又、併設の施設職員や、周辺地域の協力の要請も確立されている。	震災後の余震で大きな被害を受け、3ヶ月ほど法人の特養ホームで避難生活をした。その経験を活かし、地域の方10名に災害対策員をお願いし委嘱をしている。発電機、医薬品、食料、水、毛布等の備蓄を完備している。火災、水害、地震、停電、断水等のマニュアルを作成して職員は緊急時に備える体制をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修への参加、職員会議での研修等から学んだり、又、禁句マニュアルを作成し対応している。職員間での気付きなどを共有し、言葉かけ・対応に注意している。	具体的な言葉を表記した、禁句マニュアルを作成している。外部研修に職員を必ず参加させており、マニュアルも毎年見直しをしている。入居者に対して「さん」をつけて呼びかけをしており、入居者さんも「はい」と気持ちの良い返事を返していた。トイレ誘導もさりげない声掛けで、スムーズに行われていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活や会話の中から、本人の思いを引出し、本人がやりたい事や興味のあることを行っていたり、職員個々に対応している。又、本人が意欲を引き出すよう声掛け等の対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ではあるが、その人その人の希望に沿った対応を心掛けている。本人の興味のあること(余暇活動)を行ったり、個別支援での散歩や外食等の実施。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある衣類の着用、本人の意思決定できるような働き掛けを行っている。又、定期的に散髪に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様個々の嗜好品・嫌いなものを把握し、その時その時の季節を感じていただけるような食事の提供を心掛けている。又、出来る機能を活かした食事の準備(盛り付け等)。個人に合わせ食べやすい食形態(キザミ等)での提供を行っている。	朝・夕の食事は職員が作るが、昼食はパートさんが作っている。盛り付けに参加できる入居者さんが2名いる。全介助の入居者が3名いらっしゃるため、職員は弁当持参で時間をずらして食べている。季節を感じる食事を提供するように配慮している。訪問時の昼食は、おいしい芋の子汁であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に4回、管理栄養士に献立を提示し、カロリー計算・助言を頂いている。又、日々の食事・水分摂取量のチェックを行い、個々の状態の把握に努めている。体調に応じて表情・状態を確認し無理のないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて口腔清潔に努めている。又、夜間は入れ歯洗浄剤に漬けて、清潔を確保している。尚、定期的に口腔ケアに使用するコップ・ブラシを漂白し、衛生面でも考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を必要とされる方がほとんどであるが、トイレで排泄を行っている。言葉による訴えの他、その時々表情や体動から、言語以外での訴えも汲み取り、排泄の誘導へと繋げている。又、排泄チェック表を確認し、必要に応じて声掛けでの誘導を行っている。	「排泄はトイレで」を入居者、職員共に当たり前と捉えている。ポータブルの使用はほとんどない。色々なトイレサインがあるが、職員は素早く対応できている。介助時、双方に笑顔があることは、信頼の関係が良好であると感じた。排泄後は温タオルで清拭をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修を通し、便秘に対する知識を職員個々が共有している。食事や水分からの働きかけの他、自然排便が困難な際はかかりつけ医の指示による下剤の服薬によって排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後に行い、1日～2日置きに入浴して頂いている。入居者様の希望や要望を取り入れ、個々に合った入浴・介助を行っている。又、家族、本人の希望も取り入れ、同性介助も実施している。	毎日午後、遅番職員が担当している。皆さんお風呂は大好きで、週3～4回は入浴をしている。その日の体調に合わせて支援をしており、湯船につかりながら、日常聞かれない話や歌が出ることもあり、貴重な時間である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週に1度、居室のリネン交換・掃除を行っている。又、本人の体調や希望に合わせて、居室での休息の時間を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳・薬説明書から、職員個々が理解している。又、薬変更時は医師からの説明や、本人の状態の観察に努め、申し送りやケース記録から職員間で情報を共有している。通院時、医師への情報提供もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々に合わせて、軽作業や余暇活動を行い、日々出来る機能を活かせる場を支援している。又、外食やドライブ、慰問等を行い、気分転換に繋がるような働き掛けを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日、お花見ドライブで個別に外出支援を行っている。又、天気の良い日に、散歩・ドライブ・外食など行い楽しんでいただいたり、家族様や地域の方々に協力していただき、季節ごとの行事なども行っている。(バイク交流会、納涼会、敬老会、芋煮会等々)	介護度が高くなってきているため、頻繁な散歩はできなくなっているが、天気の良い日には法人敷地内を1対1で散歩している。ホーム主催の行事(敬老会、芋煮会)には半分以上の家族も参加して楽しんでいる。ドライブで希望の場所へ行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理を行っている方はいませんが、家族様からお預かりした、本人のお金は金庫にて管理している。本人から希望があれば、欲しいもの等の購入を行っている。又、毎日のお金・帳簿の確認の実施、定期的に家族様への確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があれば電話をかけたたり、又、家族様からかかってきた電話も本人に変わり話をすることもある。家族様からの手紙も本人に渡したり、必要に応じて代読することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、季節の花や植物、季節ごとの行事の装飾や絵などを飾り、視界から楽しんでいただけよう取り組んでいる。又、過ごしやすいよう、事業所内の空調の管理も行っている。	車椅子利用者が増えたため、共有スペースにあった置小上がりを撤去して、フラットにし、ゆったりと出来るように改造をした。清掃、管理が行き届き、明るく落ち着きがある。幅広の廊下は車椅子移動を見据えたものであり、廊下には椅子、ソファが置いてあり、一人の居場所であったり、トイレ待ちに使われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の自席の他に、食堂や廊下に長椅子やソファを設置している。本人の気持ちに合わせて、その所々に思い思いに過ごせる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や家族様の写真であったり、昔馴染みの本人の物、花を置き、個々に過ごしやすい居室にしている。	各居室には別々の暖簾が掛けてあり(ホームからの誕生日プレゼント)目印になっている。ホームで撮った最近の写真がスタンドに飾ってある。各部屋には季節の花(訪問時はリンドウ)が飾られてあった。時計、飾り物は入居者さんの目の高さにあわせて掛けてあり、細部にわたって配慮が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、足腰が弱い方のための手すり、車椅子・歩行器がすれ違える幅の廊下、段差のないバリアフリー、玄関先のスロープの設置等で生活しやすい作りになっている。又、危険物となるものの排除に努め、安心・安全に生活できる居住空間を提供している。		